



平成30年3月30日

国土交通省中部地方整備局

富士砂防事務所

富士山火山噴火対策に着手します。 平成30年度富士砂防事務所予算の概要について

平成30年度中部地方整備局富士砂防事務所関係予算の配分が決定しました。
富士砂防事務所は、噴火に備えた対策を進める火山噴火対策に平成30年度から着手します。

■ 火山砂防事業費

- ① 潤井川及び芝川流域において、火山噴火や降雨に起因する土砂災害を防ぐための砂防施設整備を推進します。
- ② 富士山北麓において、火山噴火に起因する土砂災害対策に着手します。
- ③ 大沢崩れ源頭部の斜面对策工を実施します。

■ 地すべり対策事業費

- ① 地すべり抑制工、抑止工の進捗を図ります。
- ② 抑止工施工のための工事用道路、施工ヤードを整備します。

1. 添付資料： 平成30年度富士砂防事務所事業概要

なお、富士砂防HPにも掲載されております。

<http://www.cbr.mlit.go.jp/fujisabo/index.html>

2. 配布先： 静岡県政記者クラブ、山梨県政記者クラブ、富士宮市記者クラブ、 富士記者クラブ、 静岡市記者クラブ

【問合せ先】 国土交通省中部地方整備局 富士砂防事務所

副所長 白 木 久 也

工務課長 池 田 正 樹

TEL 0544-27-5221 (代表)

FAX 0544-27-5986

富士山火山砂防事業

■富士山麓における土砂災害を防ぐための砂防事業

「潤井川及び芝川流域における対策」

富士山を源流とする潤井川流域の各溪流において、火山噴火に起因する土砂災害、降雨に起因する土石流対策のために砂防施設整備を推進します。

- ・風祭川支川鞍骨沢で遊砂地工の整備
- ・風祭川で砂防堰堤工群の整備
- ・風祭川支川春沢で砂防堰堤工群の整備
- ・風祭川支川鞍骨沢第1支渓で遊砂地工の整備
- ・弓沢川支川市兵衛沢第1支渓で遊砂地工の整備
- ・弓沢川支川立堀沢で遊砂地工の整備
- ・凡夫川支川砂沢で遊砂地工の整備
- ・足取川支川大久保沢で砂防堰堤工の整備
- ・赤湊川で千束砂防堰堤工群の整備
- ・足取川支川一ノ竹沢で砂防堰堤工の整備
- ・足取川支川揚久保沢で砂防堰堤工の整備
- ・弓沢川で砂防堰堤工群の整備
- ・大沢川で富士山南麓緊急減災対策工（ブロック製作工）

「富士山北麓における対策」

富士山の火山噴火に起因する土砂災害対策に着手します。

- ・宮川で緊急減災対策工（除石）
- ・富士山北麓緊急減災対策工（ブロック製作工）

「大沢崩れ対策」

- ・富士山大沢崩れ源頭部の斜面对策工の整備

地 区 名	年 度	事業費 (百万円)	対前年度比
富士山南西・北麓野溪地区 (富士山砂防事業)	平成29年度	2,220	1.10
	平成30年度	2,440	

由比地すべり対策事業

■豪雨や東海地震等による大規模地すべり災害の発生を未然に防ぐための地すべり対策事業

「地すべり抑制工の整備」

地下水の水位を下げ、地すべりの動きを停止、もしくは緩和させる抑制工を行います。

- ・山中排水トンネルの整備

「地すべり抑止工の整備」

構造物の持つ抵抗力を利用して地すべり運動を停止させる抑止工を行います。

- ・山中ブロックで深礎杭の整備

「工事用道路・施工ヤードの整備」

蜂ヶ沢ブロックの深礎杭施工のための工事用道路・施工ヤードを整備します。

- ・工事用道路の整備
- ・施工ヤードの整備

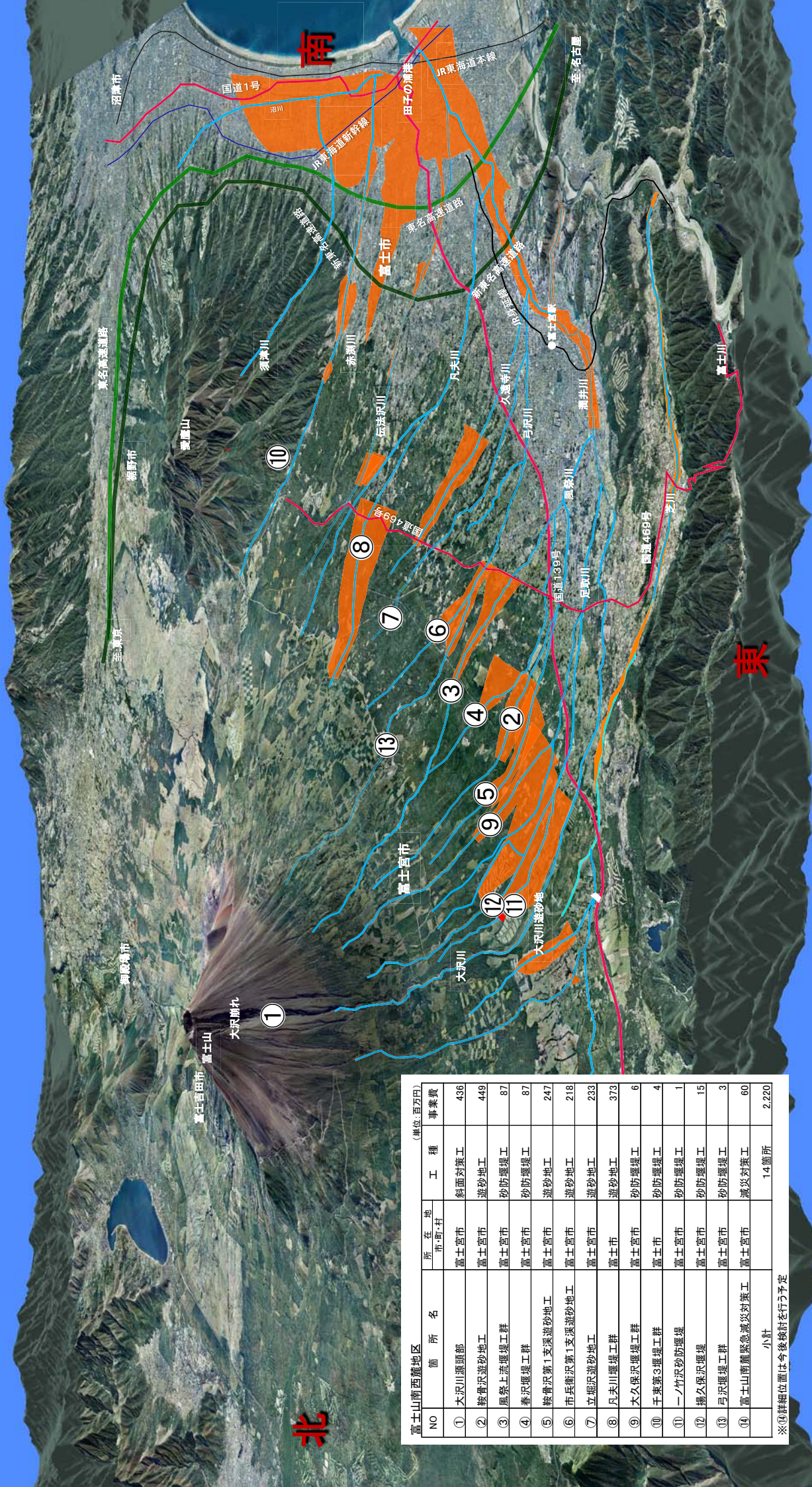
地 区 名	年 度	事業費 (百万円)	対前年度比
由比地区（地すべり対策事業）	平成29年度	1,757	1.00
	平成30年度	1,760	

富士山火山砂防事業(富士山南西麓地区)
平成30年度 事業箇所

西

東

北



富士山南西麓地区				(単位:百万円)	
NO	箇所名	所在地 市・町・村	工種	事業費	
①	大沢川源頭部	富士吉田市	斜面対策工	436	
②	鞍馬川源頭部	富士吉田市	遊砂地工	449	
③	風祭川源頭部	富士吉田市	砂防堰堤工	87	
④	春沢川源頭部	富士吉田市	砂防堰堤工	87	
⑤	鞍馬川第1支流遊砂地工	富士吉田市	遊砂地工	247	
⑥	市兵衛川第1支流遊砂地工	富士吉田市	遊砂地工	218	
⑦	立廻川遊砂地工	富士吉田市	遊砂地工	233	
⑧	凡夫川遊砂地工	富士市	遊砂地工	373	
⑨	大久保川遊砂地工	富士吉田市	砂防堰堤工	6	
⑩	千束川3堰堤工	富士市	砂防堰堤工	4	
⑪	一ノ竹沢砂防堰堤	富士吉田市	砂防堰堤工	1	
⑫	揚久保沢堰堤	富士吉田市	砂防堰堤工	15	
⑬	弓沢堰堤工	富士吉田市	砂防堰堤工	3	
⑭	富士山麓緊急減災対策工	富士吉田市	減災対策工	60	
小計				14箇所	2,220

※⑩詳細位置は今後検討を行う予定

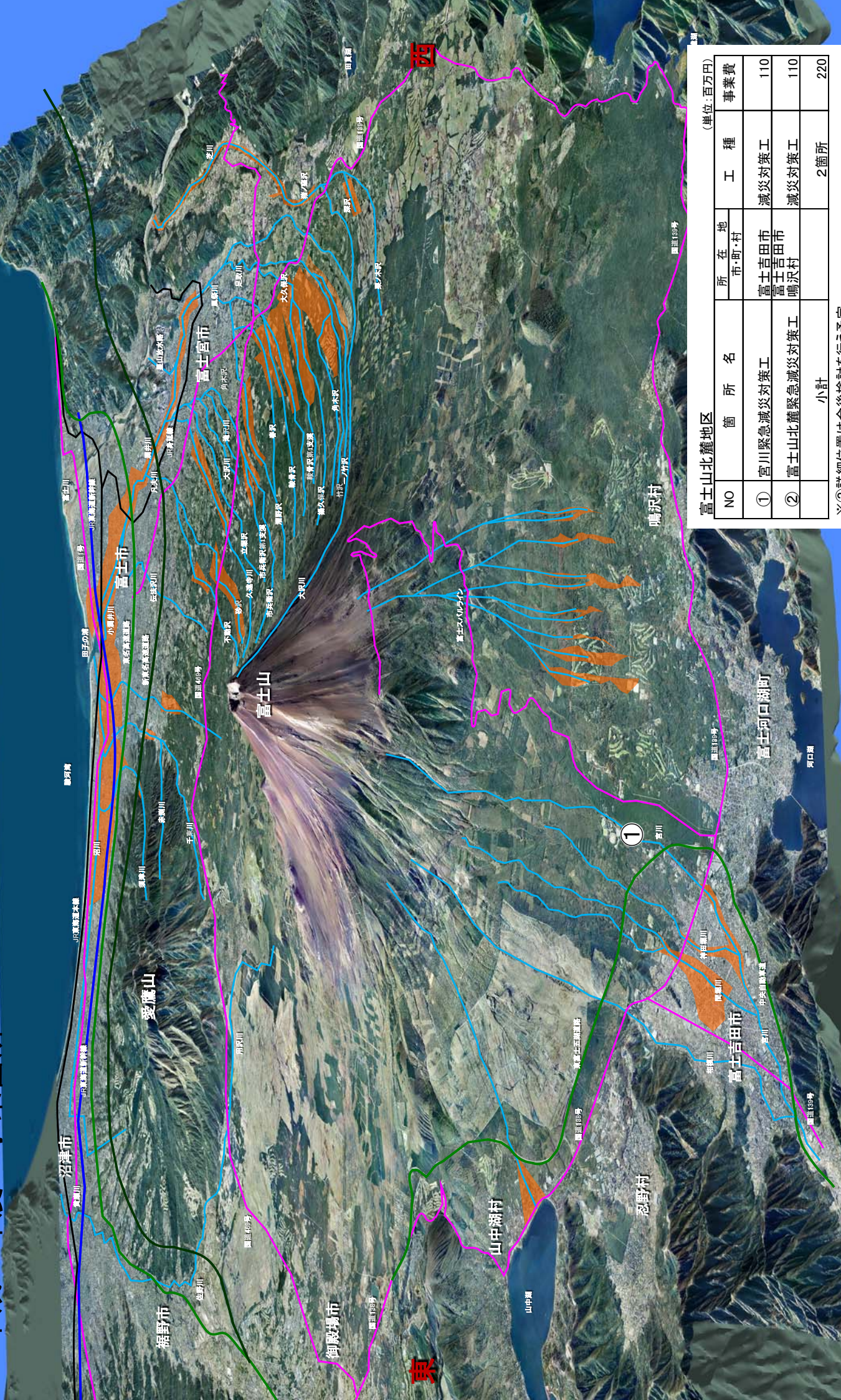
富士山火山砂防事業(富士山北麓地区)
平成30年度 事業箇所

南

北

東

西



富士山北麓地区					(単位:百万円)	
NO	箇所名	所在地		工種	事業費	
		市・町・村				
①	宮川緊急減災対策工	富士吉田市		減災対策工	110	
②	富士山北麓緊急減災対策工	富士吉田市		減災対策工	110	
	小計			2箇所	220	

※②詳細位置は今後検討を行う予定

富士山火山噴火対策

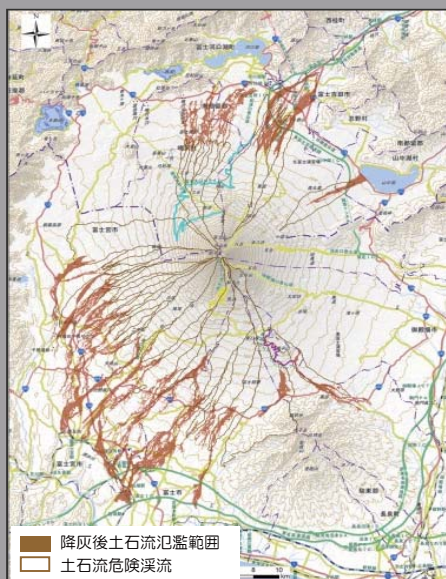
富士山は、過去に活発な噴火活動を繰り返して成長してきた活火山です。富士山の広大な山麓は、多くの人々の生活や経済活動が営まれると共に、日本の経済を支える重要交通網が存在することから、降雨による土砂災害だけでなく、火山噴火に伴う土砂災害にも備えなければなりません。富士砂防事務所では、噴火に備えた対策を進める火山噴火対策に平成30年度から着手します。

対象とする土砂災害は、噴火の実績があり、発生頻度が高い現象のうち、直接人命や財産に被害をおよぼすと考えられる次のものとしします。

降灰後の土石流
(基本対策 緊急対策)



雲仙岳1991年噴火

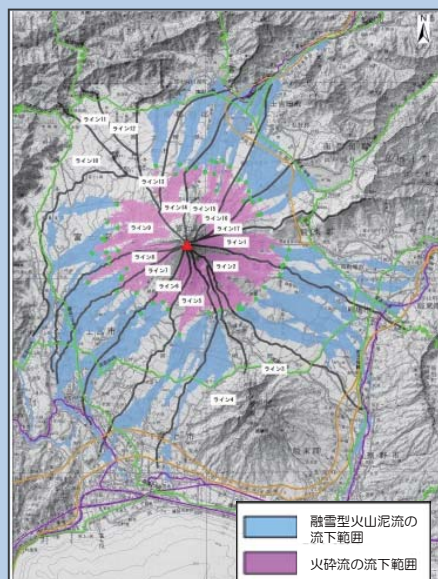


降灰後の土石流による想定範囲
小規模噴火(1,000万 m^3 DRE)によって、
噴火後10年間繰り返し発生する土石流

融雪型火山泥流
(緊急対策)



十勝岳1926年噴火

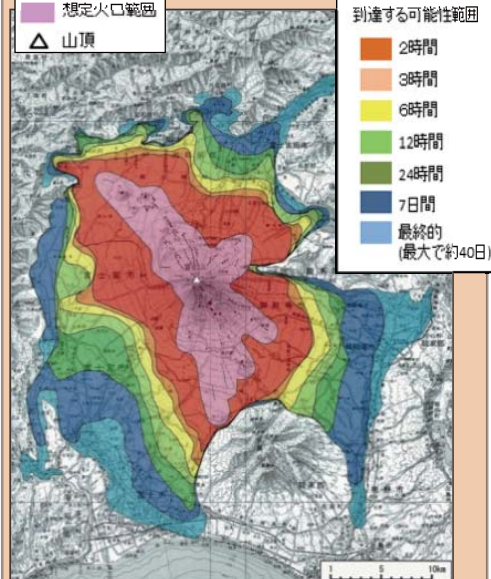


融雪型火山泥流による想定範囲
滝沢火砕流規模(240万 m^3)

溶岩流
(緊急対策)



三宅島1983年噴火



溶岩流による想定範囲
(富士山ハザードマップ検討委員会報告書
・溶岩流可能性マップ) 大・中・小規模溶
岩流を合成

富士山の噴火が原因となって起こる土砂災害は、発生時期や発生場所の予測が困難であり、かつ、規模が大きくなることも想定されます。噴火への対応は、ハード対策とソフト対策のそれぞれについて、平常時から計画的に砂防施設や監視・観測機器を整備する「基本対策」と、噴火時にできる限りの被害軽減(減災)に取り組む「緊急対策」の2つを組み合わせ実施します。

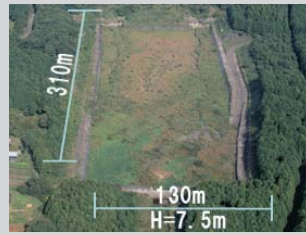
ハード対策

ソフト対策

基本対策



砂防堰堤
(富士山)



沈砂地
(富士山)

平常時から計画的に実施する。段階的に目標を定め、景観・自然環境に配慮しつつ整備を進める。



監視カメラ
(富士山)



ワイヤーセンサー設置
(平成26年御嶽山噴火)

平常時から計画的に実施する。土砂災害のおそれがある時、あるいは土砂災害が発生した時に効果が発揮されるよう計画する。

緊急対策



コンクリートブロック備蓄
(浅間山)



ブロック堰堤
(H26御嶽山)

緊急的な対応により、被害をできる限り軽減(減災)する。緊急対策の迅速な実施のため、資機材の備蓄や用地の調整等を平常時より行う。



監視カメラの緊急設置
(平成26年御嶽山噴火)

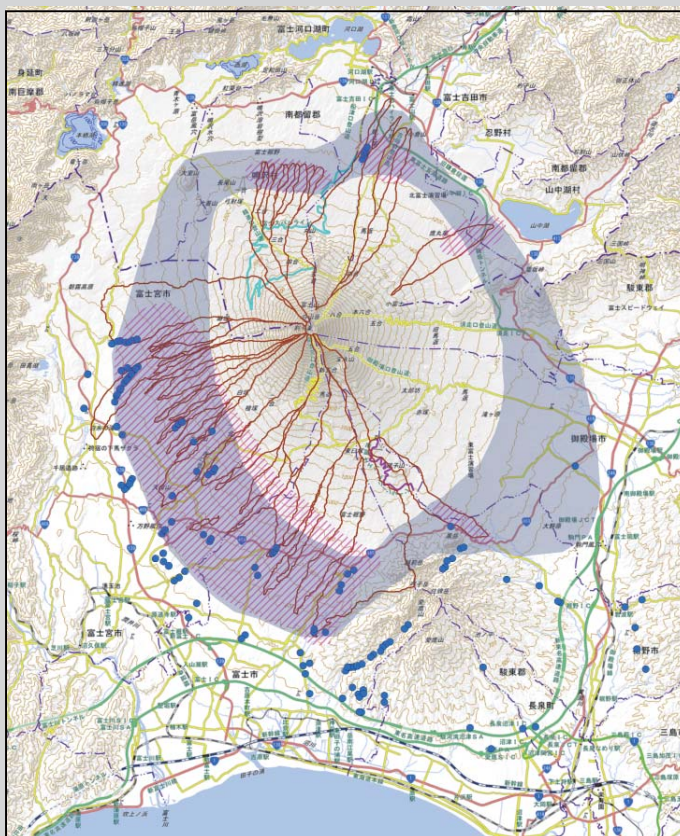


降灰状況調査
(平成26年御嶽山噴火)

火山噴火時の状況把握や広域避難計画と連携した関係機関への情報提供を行う。

対策エリア

- 既設砂防施設の整備箇所(国・県)
- /// 基本ハード対策が必要なエリア
- 緊急ハード対策が必要なエリア



- 既設施設の整備箇所(国・県・大学等)
- /// 基本ソフト対策が必要なエリア
- 緊急ソフト対策が必要なエリア

